



農福連携事業で『障がい者を納税者に』

トップインタビュー

(株)トリニティ
取締役専務 太田 祿万 氏

(一社) A・A・Iグループ
代表理事 砂原 英二 氏

農業と福祉の連携で、障がい者の自立支援プロジェクトを立ち上げた(一社)A・A・Iグループ。このたび就労継続支援B型事業所「あおぞら」を新設し、水耕栽培ビジネスに参入した。

農福連携による障がい者支援事業は四国初。

野菜生産の軽作業を請け負い、施設外就労として自立のための作業をおこなう。生産した野菜は、主に契約企業に向けて販売。事業の安定化を図り、訓練を通して一般就労を目指していく。

水耕栽培事業を担当するのはグループの(株)トリニティ。社名には会社、就労者、社会が三位一体で取り組むという意味を持たせた。

砂原代表理事、トリニティ太田祿万専務にグループの目指す方向性を聞いた。

高松市西宝町3丁目6-22

TEL 087-837-2240

▽(一社)A・A・グループの歩みと現況は

2015年11月、運営していた㈱西日本ファーマシーを中心とするNPホールディングスを、全国チェーン薬局に株式譲渡をしました。その際に譲渡対象から外した複数の薬局で、質の高い地域で必要とされる「理想の薬局」を作ろうと、(一社)A・A・Iを組織して現在も取り組みをしています。

そして、株式譲渡の際にいただいた株式譲渡金は何かしらの方法で社会へ還元しようと考えた結果、これからの日本や地域を支える子供たちの役にたてばと思い給付型奨学金を開始しました。これまでの助成数は6年間で応募者334名・奨学金支給者157名となりました。

財団は今年設立7年目となりましたが、多くの方々の応援と支援により、第一期の中学1年であった子供さんは今春には大学に進学するまでになりました。

その他にも、児童養護施設や子供たちの環境を向上させてくれる団体や組織への助成活動を続けています。

▽四国初の農福連携による障がい者支援事業がスタートし

た
前職(NP)では、薬局事業以外に介護事業を行っていましたが、障がい者の方に関わることはほとんどありませんでした。

たまたまなのですが、今年5月に室内水耕栽培と障がい者のマッチング事業を見学する機会があり、栽培プラント内に入ったときに環境の快適さに感激しました。

「こんな環境で障がい者の方々が就労できればどんなに素晴らしいだろうことだろう」と思い、自社で運営することをその場で決断しました。

完全密閉型で農業を使用せず、安全安心な野菜を栽培することは安定的な収益を確保し、障がい者の方が受け取る工賃を高水準に保つことへと繋がります。

また、施設内は21℃〜23℃、湿度70%〜80%と働きやすい環境に保たれており、土壌栽培の約3倍のスピードで発育します。種から芽が出て発育していく過程が、仕事を通して見るにより、やりがい、生きがいを感じることができるよう

ないかと考えています。

事業の目指すところは、一人でも多くの方が一般就労にステップアップできるような支援していくことです。

「障がい者を納税者に」を合言葉に、一般就労率向上を目指して参ります。

▽ファーム事業の規模は

1階のB型事業所が約125㎡、4階に構えた「トリニティ・ファーム」は、加工場を含めて約270㎡の規模です。水耕栽培用の棚が40あり、50種類ほどの葉物野菜の栽培が可能です。販売先の意見を聞きながら、栽培テストを重ね、食を通して新たな価値の提供を行っていきます。

12月1日よりテスト栽培をスタートさせています。まずは、施設見学に来場された方にお渡しできるレタス等の栽培をしています。施設見学会は12月5日より実施しています。平日の10時〜15時の時間帯です。関心のある方はぜひお問い合わせを頂きたいと思えます。見学は利用者とそのご家族、地域の方、企業や飲食店の方など、どなたでも可能です。



▽決定済み及び想定する販売先は

販売先は、飲食店、道の駅、スーパー、そして企業の福利厚生としてのサブスク等を想定しています。

障がい者の方が受け取る工賃を高水準に保つためには、販売先と

の綿密な打ち合わせが必須になります。何をどれくらい、いつまでに必要か、販売先のご要望をお聞きしながら進めていく計画です。

その中でも、サブスクは、栽培する棚を量に応じて月額契約していただければ、希望される葉物野菜を栽培して定期的に提供いたします。飲食店の仕入れや企業の福利厚生への活用を提案していきます。すでに複数社からお問い合わせを頂いております。サブスク契約の正式な募集は1月スタートとしていきます。

ホームページやSNSでその時々々の旬の商品情報、販売日などを発信し一般消費者の方が少量でもお買い求め頂けるようにします。

▽障がい者雇用計画について

障がい者の雇用については、まずは当施設が行っている完全密閉型水耕栽培を広く認知していただくことが大事です。

ファームの案内のため相談支援事業所を訪問していますが、ぜひ見学に行きたいという話を頂いています。自分の目で見て、利用者に提案したいということでした。

また、広いスペースを活用し、障がい者の視点に立って、一人一人が自分に合った仕事を安心して取組み

る環境を整えたいと思っております。

そのために水耕栽培だけでなく、他のやりがいのある仕事を加えて利用者にとくさんの選択肢をご提供していく考えです。

障がい者の方は満足に食事をとれない方が多くいらっしゃるので、当事業所は温かい昼食を無料で提供いたします。



厚生労働省が発表した令和3年障害者雇用状況の集計結果では、民間企業に雇用されている障がい者の数は前年より三・四%増加し、過去最高を記録しているものの、法定雇用達成企業の割合は四七・〇%に留まっているのが現状です。

地元の企業様に障がい者雇用の現状と課題をお聞きし、当施設ができることを提案していきたいと思つて

います。

▽農福連携による第2第3のファーム、その他事業は計画していくのか

今後、農福連携を主軸にした第2、第3の事業所を開所していく予定であり、このたび開始した高松市の事業所でノウハウを蓄積して、年明けからは新しい場所の選定に入ります。

そのためには、問題や失敗例を好機と捉え、従業員全員で課題解決し、障がい者の方から選んでいただけ的事业所に成長した上で第2第3の開所へと繋げていきたいと考えています。

▽A・A・Iグループの目指す未来像とは

農福連携の(株)トリニティ、薬局運営会社である(株)ケイラインファーマシーと、公益財団法人砂原児童基金、合わせて法人格が違うそれぞれが協働しながら、顧客(患者様・子供たち・障がい者方々)とそこご家族や地域に貢献をしていくことです。

そのためには、更に当社グループ職員への満足度と処遇を高め、新たな法人の設立も視野に入れて、時代の一步先を見ながら、根を張った活動を続けて参ります。

(了)